

令和7年度
札苗緑小学校
学校教育説明
年度末報告



令和7年度 札幌市学校教育

さっぽろの学校が大切にしていること

話し合い
「言いたい」ことを見付け、自分でどうすればよいかを考えたり、話し合ったりして、解決していく力を身に付けていこう！

みんな、みんなの力を活かそう
あなたは、よさや可能性をもっているよ。そして、周りのみんなもそれぞれよさや可能性をもっているね。だから、あなたも、みんなも、しなやかに自分らしさを発揮できるようにしていこう！

みんなのめざそう
二人二人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり

プラス
さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」
札幌市内の全ての公立学校の子どもを笑顔に笑わせ、笑顔のまほうをまはそう。プラスのまほうには、魔法に書か、魔法言葉にして、魔法をまはそう。笑顔のまほうをまはそう。笑顔のまほうをまはそう。

令和7年度 札幌市学校教育

子ども一人一人が
「自分が大切にされている」
と実感できる学校づくり



札幌市教育委員会

今年度も、札幌市教育委員会より「札幌市学校教育(子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり、等の重点を説明したパンフレット)」が示されています。詳しく御覧になりたい方は、札幌市教育委員会のホームページを御覧ください。この方針を受けて、札幌市内の公立学校の教育計画が立てられています。

教育目標

「輝くひとみに
明るい笑顔があふれる学校」



楽しく学び
礼儀正しく
がまん強く

札幌緑小学校は、今年が32周年でした。

学校教育目標は、開校以来変わらず、「輝くひとみに 明るい笑顔があふれる学校」です。

楽しく学び 考え豊かな子どもを育てる。

礼儀正しく 心あたたかな子どもを育てる。

我慢強く 体すこやかな子どもを育てる。

3つの視点が目標の柱となっています。

令和7年度の重点目標

夢と笑顔あふれる あたたかい学校の創造 ～キーワードは「つながり」～

学びや活動をつなげ、
身に付けた力をつなげ、
人をつなげる



札幌苗緑小学校の教育目標を達成するために、今年度の重点目標を「夢と笑顔あふれる あたたかい学校の創造～キーワードは「つながり」～」と設定しました。

担任だけではなく、全教職員が関わりながら、子どもが…保護者が…誰もが夢をもち、安心できる学校を目指しました。

学びや活動の「つながり」



「つながり」その1

●「学ぶ力」の育成

課題探究的な学習を取り入れた授業
カリキュラム・マネジメントの充実

「本物から学ぶ」教育活動

●「健やかな体」の育成

中休み外遊び奨励

縄跳びを中心とした体力づくり

マット・跳び箱週間

栄養教諭の食育授業



重点目標を、4つの「つながり」に分けて振り返ります。

「つながり」その1

●「学ぶ力」の育成

・課題探究的な学習を取り入れた授業：学習課題が明確で、児童が見通しをもって解決していく授業。学習を振り返ることで自らの成長を実感し、次につながる授業。その実現のために、教員研修をコンスタントに行いました。全校的に学力の向上が必要な現状認識に立った上で、授業の冒頭で児童の中に「問いの意識」を生むことにより、より「分かる・できる授業」を目指しました。手にした成果を、次年度は国語と算数の2教科に絞った授業言及をする中でよりシャープに目標に近付いていくことをねらいます。

・カリキュラム・マネジメントの充実：児童の6年間の育ちを見通した連続性のあるカリキュラムを作成、実行しています。よりよいカリキュラムへと毎年発展的に修正していますが、今年度は委員会活動と卒業式に5年生児童を参加させ、活動の連続性を高めました。異学年が常に互いを意識しながら活動することの教育的効果は高く、卒業式の練習では互いの学年を大切に思う「つながり」が両学年の児童の姿から滲み出ていました。

・「本物から学ぶ」教育活動：社会科や総合的な学習の時間を中心に、ゲスト講師を招きました。消防士さん、アイヌ文化講師、清掃事務所の方、元パラリンピアン、玉ねぎ農家の方、地域のまちづくりの中心となる方、看護師さん、アナウンサーの方、カメラマンさん、ラッパーなど。児童は、知識を得るだけではなく、大人になった自分を想像し憧れ

も抱いていたようです。また、今年度は3年生以上のすべての学年で社会科現地学習を行いました。3年生ではロイズ工場&パールライス工場、4年生では水道記念館&白石清掃工場、5年生では道央札幌郵便局&豊平川河川防災ステーション&モエレ沼公園、6年生では旧道庁赤レンガ&道議会本会議場、はるにれ学級では北海道開拓の村へと出向きました。社会科の学習では、深い理解と共に実感を伴った理解も大切で、現地で学ぶことで社会参画意識も高まります。次年度も、3年生以上の現地学習を継続していきます。

学びや活動の「つながり」



「つながり」その1

- 「学ぶ力」の育成
課題探究的な学習を取り入れた授業
カリキュラム・マネジメントの充実
「本物から学ぶ」教育活動
- 「健やかな体」の育成
中休み外遊び奨励
縄跳びを中心とした体力づくり
マット・跳び箱週間
栄養教諭の食育授業



●「健やかな体」の育成

・中休み外遊び奨励: 令和5年度から日課表を改訂しています。中休みを5分延長することで、札幌東公園も活用した外遊びの推進を続けています。今年度は、冬の外遊びに出る児童も増え、外遊びの楽しさを感じる児童が増えてきているようです。

・縄跳びを中心とした体力づくり: 3・4年生の運動会表現で縄跳びに慣れ親しんでいる本校の児童ですが、他にも縄跳び記録会といったイベントを設定しました。今年度は、継続的な運動機会の創出にはまだ結び付いていないため、方法を工夫して次年度も継続していきます。

・マット・跳び箱週間: 例年行っている取組です。体育のマット運動と跳び箱運動を行う時期を全学年で揃えて、用具を体育館の中に出しっぱなしにします。そうすることで、準備と片付けの作業を全学年で削減でき、実質的な運動時間が大幅に増えることで、児童が試行錯誤しながら技に取り組む時間を生んでいます。次年度も継続していきます。

・栄養教諭の食育授業: 昨年度より2～4年生の全学級とはるにれ学級を対象としています。給食親学校である丘珠小勤務の栄養教諭が来校し、栄養バランスのことやカルシウムのこと、朝ごはんの重要性について授業を行います。次年度も継続していきます。

心と心の「つながり」

- 「豊かな心」の育成
友遊活動の継続
いじめの防止・早期発見
・組織的対応

- 児童理解

シャボテン、児童アンケート、Talks Week
「みどりルーム」での登校支援



「つながり」その2

- 「豊かな心」の育成

・友遊活動の継続: 近年は廃止する学校が増えてきた異学年交流ですが、本校では児童の育ちを毎年感じています。低学年児童にとっては、お兄さん・お姉さんと遊ぶことで安心感を手にします。上級生にとっては、遊びの時間をプロデュースする中で、下級生に頼られ、下級生の笑顔から自信を得る場となります。今年度も、モエレ沼公園までの遠足を友遊活動の交流の形で行いました。心と心の「つながり」を育むために貴重な場となりました。

・いじめの防止・早期発見・組織的対応: 本校では、いじめ防止基本方針のもと、組織的な対応を行っています。全職員が参加する職員集会で各学年の児童の様子を通年で交流を続けました。また、月1回のいじめ防止対策委員会では、各学年のいじめに関わる状況を交流し、それぞれのケースについての対応方法を共有、その後の早期発見・迅速な組織対応に生かすことができました。今後も継続していきます。いじめの予兆に気付いた時には、すぐに担任・学校までお知らせください。

心と心の「つながり」

- 「豊かな心」の育成
友遊活動の継続
いじめの防止・早期発見
・組織的対応



● 児童理解

シャボテン、児童アンケート、Talks Week
「みどりルーム」での登校支援

● 児童理解

・シャボテン、児童アンケート、Talks Week: 自分の悩みを打ち明けることに抵抗を感じる児童もいます。そんな児童も先生たちと悩みを共有できるよう、本校では全校的にいくつかの方法を用意しています。毎朝の心身の健康状態を先生に知らせるアプリ「シャボテン」、年4回の児童アンケート、年4回の担任の先生との面談「Talks Week」です。毎回、児童の困りごとや悩みごとを聞くことで、担任の児童理解の柱となっています。その内容は保護者の方にもお知らせしています。担任と個別にじっくりと離すことで信頼関係を築くことにつながっています。次年度も継続していきます。

・「みどりルーム」での登校支援: お子さんが登校を渋ったことはありませんか? 様々な理由で行き渋りが見られたとき、教室以外で登校する場所を本校では用意しています。2階にある小規模スペース「みどりルーム」です。今年度より本格的な稼働を実現しました。毎日数人の児童が利用しており、不登校の解消や学級生活への復帰の足掛かりとなっています。今後も継続しますので、気軽にご相談ください。

横の「つながり」

- 家庭との連携・協働
学校だよりの充実
家庭での学習習慣
運動会の人数制限廃止

- 地域との連携・協働
安全・安心情報の共有
コミュニティースクールの推進



「つながり」その3

●家庭との連携・協働

・学校だよりの充実: ホームページでは、児童の活動の様子を随時配信しています。一方で学校だよりでは、先の1か月で保護者の方々に必要な情報をお届けすべく務めました。今年度からは毎月25日頃の発行を目指し、情報を少し早めに発信しました。また、「スマホとゲームと小学生」という連載企画などで、保護者と共に考えていくべき話題の提供も試みました。すぐ一で配信された際には、隅々まですべて目を通すようにお願いします。

・家庭での学習習慣: 毎年市教委から配付されている「さっぽろっ子「学び」のススメ」が今年度も各家庭に配られました。お子さんのやる気を下支えする関わりで各家庭でも学習習慣の定着のため日々取り組んでいただいたことと思います。学校からは、4月にプリント「家庭学習のすすめ」を配付しながら、教室で指導を行いました。また、令和5年度より、本校では全学年で計算ドリルと漢字ドリルの購入をお願いしています。学校でも家庭でも活用しました。一方で、低学年では、別のノートが必要となるスタイルのドリルに戸惑う児童もいたようです。ドリルのスタイルについては、次年度に向けて検討を進めているところです。

・運動会の人数制限廃止: 大規模校ではありますが、保護者入場制限の撤廃を行いました。保護者の方々が、事前の、その場での、学校からの協力要請に快く応じてくださったおかげで、「夢と笑顔があふれる あたたかい学校」を形にしたかのような行事となりました。改めて、ありがとうございました。次年度も御協力をお願いします。

横の「つながり」

- 家庭との連携・協働
学校だよりの充実
家庭での学習習慣
運動会の人数制限廃止
- 地域との連携・協働
安全・安心情報の共有
コミュニティースクールの推進

「みどり安全」～MIDORI ANZEN～		【すぐーる配信】
安全・安心情報		令和8年2月18日 札幌市立札幌緑小学校
校区内での不審者出没（保護者・東警察署からの情報提供）		
いつ	2月17日（火） 15時頃	
どこで	東雁来13条2丁目付近の路上	
	・児童が付近を ●出ている	



● 地域との連携・協働

・安全・安心情報の共有：地域で発生した不審者事案・事故事案など、学校から保護者の方々に発信しました。現在は「すぐーる」で即時的に伝えることにより、スピーディーな連携が可能となっています。今後は、登下校時間帯の学校正面の駐停車問題について、実効性のある対策を打ち出せるよう、いくつかの方法を検討中です。

・コミュニティースクールの推進：子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革や地方創世の観点からも地域の連携・協働がますます重要視されてきています。そのため、子どもが社会とのつながりの中で、多様な人と関わりながら学ぶ機会の充実を図り、変化の激しい社会をたくましく歩み続ける力を育てるためには、教職員のみならず、地域にお住まいの方や保護者の方から適切な支援をいただきながら、学校運営の改善を図っていく必要があります。そのために導入された制度がコミュニティースクールです。

札幌市では令和6年度から順次、コミュニティースクール（学校運営協議会を設置した学校）を順次導入しています。札幌北地区も今年度から学校運営協議会を設置し、学校が家庭や地域と一体となって、子どもの育ちや学びの充実に継続して取り組み、「地域とともにある学校づくり」を実現していきます。

縦の「つながり」

●小中一貫した教育の推進 「札幌地区の子ども」を 共に育てる視点



●幼保小連携の推進 これまでよりも 継続的な取組に



「つながり」その4

縦の「つながり」

●小中一貫した教育の推進

・「札幌地区の子ども」を共に育てる視点：今年度も、札幌北中学校・札幌北小学校と共に、「札幌地区の子ども」を育てる視点を共有したランドデザインを描き、取り組みを進めました。6月には、福移学園とも合同で4校同時に授業公開を行い、教職員を互いに派遣し、授業検討会を行いました。学ぶ力の育成、健やかな体の育成、豊かな心の育成を、3校合同で進めていきます。

縦の「つながり」

- 小中一貫した教育の推進
「札幌地区の子ども」を
共に育てる視点

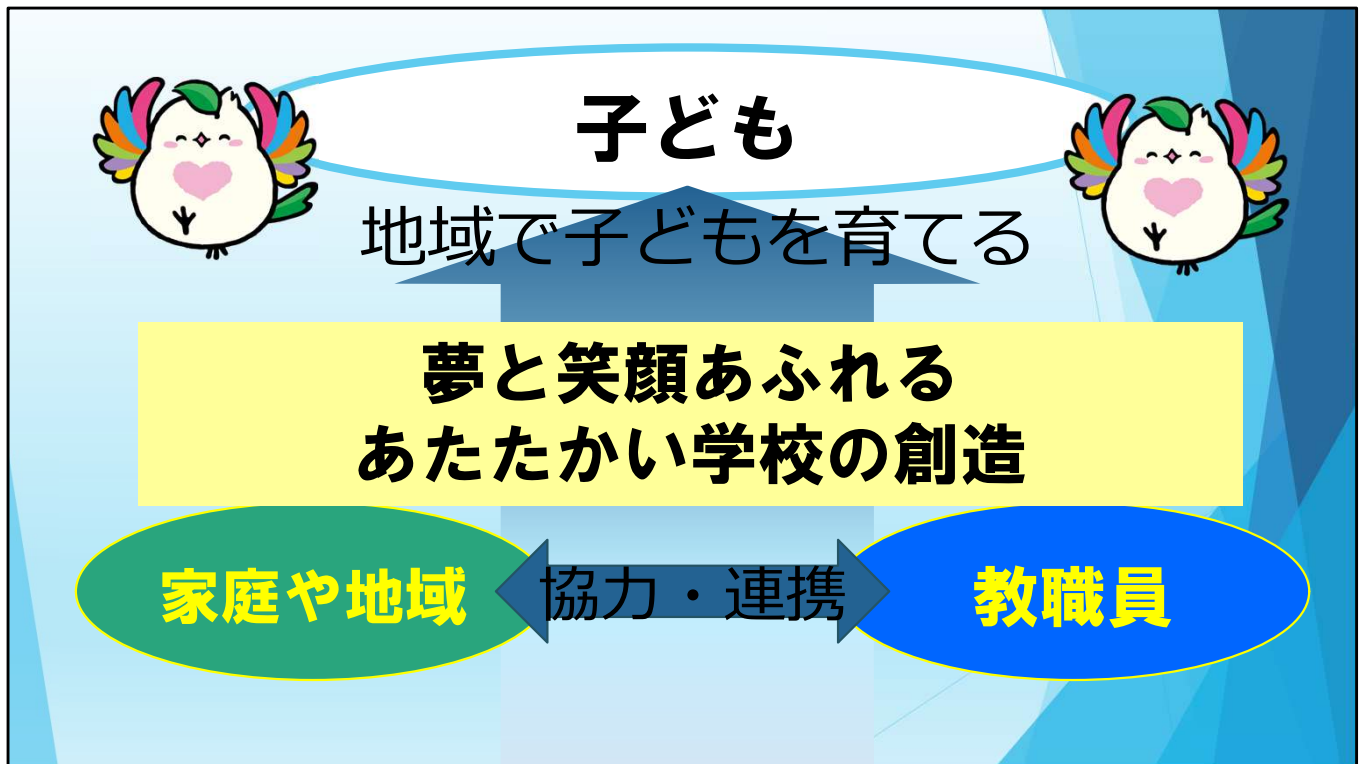


- 幼保小連携の推進
これまでよりも
継続的な取組に



●幼保小連携の推進

・これまでよりも継続的な取組に:小1プロブレムを最小限に抑えること、そのための取組みの中で園児や児童の成長を図ることを目的に幼保小連携の取組を行っています。今年度より、校区内の4園を中心により継続的な取組を目指し、年間連携プランを設定しました。「公園での共同遊び」、「運動会練習の見学」、「学校プール体験会」、「学校探検」で園児が学校に足を踏み入れる経験なども組み込みました。5年生は、一日入学の中で新1年生との交流も行いました。また、先生同士の交流も増え、園からは小学校の研究授業に足を運んでくださり、一方で小学校からは先生たちが近隣の数園を訪問し教員研修を行いました。次年度も継続していきます。



今年度も「札苗緑小学校」は、夢と笑顔あふれるあたたかい学校の創造を目指して、家庭や地域と連携しながら、子どもと教職員・子ども相互の関係を基盤に、成長してきました。

学校の主役は子どもです。そのために、教職員だけでなく、保護者の皆様と地域の皆様と手を取り合いながら地域で子どもを育てることを大切に、今後も夢と笑顔あふれるあたたかい学校を目指して行きます。

**今年度も
本校の教育活動への御協力
ありがとうございました。**



今年度も本校の教育活動へのご協力ありがとうございました。
次年度もまたどうぞよろしくお願いいたします。